

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2010年版  
CASBEE-新築（簡易版）2010年追補版（BEI対応）
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

## 1. 建物概要

建物名称	株式会社タケショー新社屋プロジェクト	
建設地	北区 -	
用途地域	工業地域、防火指定なし	
建物用途	事務所、工場	
竣工年	2016年1月 竣工	
敷地面積	20,966.56 m <sup>2</sup>	
建築面積	6,112.70 m <sup>2</sup>	
延床面積	10,441.01 m <sup>2</sup>	
階数	地上2F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2015年1月15日	

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43.4}{40.1} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.1		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0	
			維持管理	Q2.1.3	3.0	
			更新性	Q2.3.3	3.3	
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.2		耐震・免震	Q2.2.1	3.0	
			信頼性	Q2.2.4	3.4	
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0	
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	2.5		建物の熱負荷抑制	LR1.1	1.5	
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5	
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.7		節水	LR2.1.1	3.0	
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	1.0	
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0	
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	Q3.1	2.0	
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0	
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	2.0	
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0	

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

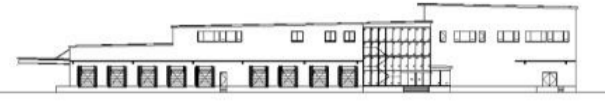
内装部材の再利用可能性向上に配慮した。

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

## 評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社タケショー新社屋プロジェクト	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市北区	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	285 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 竣工	評価の実施日	2015年1月15日
敷地面積	20,967 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社レーモンド事務所
建築面積	6,113 m <sup>2</sup>	確認日	2015年1月15日
延床面積	10,441 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 81%  
③上記+②以外の 81%  
④上記+ 81%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

**Q のスコア = 2.7**

##### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

#### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.3**

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 工場や倉庫に求められる自由度の高さと階高のゆとりを確保し、外皮性能を高めることで建物の環境品質を高めるとあわせて、内装材の再利用可能性を向上させる取り組みや光害など周辺環境への負荷が少なくなるよう配慮した。		<b>その他</b> 特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 外装材に断熱性の高い金属製サンドイッチパネルを採用し、外皮性能の向上に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高を6mとして階高のゆとりを確保するとともに、壁長さ比率を0.07%として空間の形状・自由さに配慮した。また、給排水管および通信配線の更新時に構造部材や仕上げ材を傷めることがないような工法を採用し、設備の	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数=20.65%。空地率=70.85%。
<b>LR1 エネルギー</b> 休憩室にトップライトを設置し、自然エネルギーの直接利用をするほか、外壁、窓等を通しての熱の損失の防止のための工夫をし、建物の熱負荷抑制に配慮した。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装材にOAフロアなど再利用可能なユニット部材を採用し、部材の再利用可能性の向上への取り組みに配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 光害対策ガイドライン及び屋外照明の扱いの取組みの過半を満たし、光害の抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される